

総合学術研究科(仮称)改組・進学説明会

令和7年5月21日:理学部B303室 16:30~
工学部101, 103室 17:30~

令和7年5月23日:農学部C110室 16:30~

Contents

総合学術研究科(仮称)の紹介

- ・現代社会文化研究科と自然科学研究科の統合の要請
- ・研究科統合の概念図
- ・新研究科の概要
- ・カリキュラム・ツリー
- ・入学者選抜の情報

各学位プログラムの紹介

現代社会文化研究科と自然科学研究科の統合の要請

※ 本計画は予定であり、変更になる場合があります。

複雑化する社会課題を解決できる人材養成が求められている



- グローバル課題**
- 気候変動、温暖化問題
 - 食料、エネルギー問題
 - 安全保障問題
 - SDGs推進
 - 急速なデジタル化への対応



- 日本の社会課題**
- 超高齢化問題
 - 地方から都市への人口流出
 - 産業競争力の低下
 - 労働生産人口の減少
 - 医療費の増加、地域間の医療格差



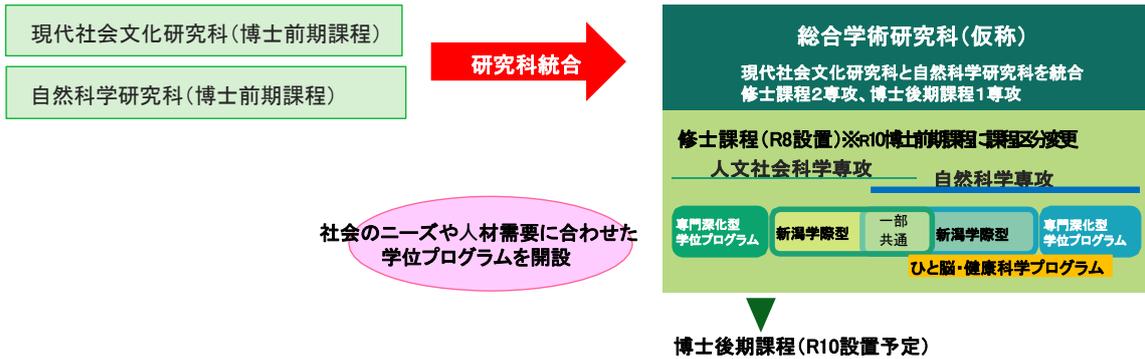
- 就職後の不安**
- スキル不足への不安
 - 知識不足への不安
 - キャリアパスへの不安
 - AI普及に伴う将来への不安
 - グローバル対応への不安

人文社会科学の「知」と自然科学の「知」を結合させ単一専門知では解決できない課題を解決する「総合知」の創出が必要
医学、口腔保健、看護、医療科学技術を融合することによる高齢社会への包括的対応、効果的介入法の開発促進が必要

- 学部教育でのメジャー・マイナー制の導入
- 創生学部を創設

学士課程段階より学際的柔軟な教育に対応
学際性重視の教育を大学院に展開

- 全ての学部で1学部1学科化を実施



社会のニーズや人材需要に合わせた学位プログラムを開設

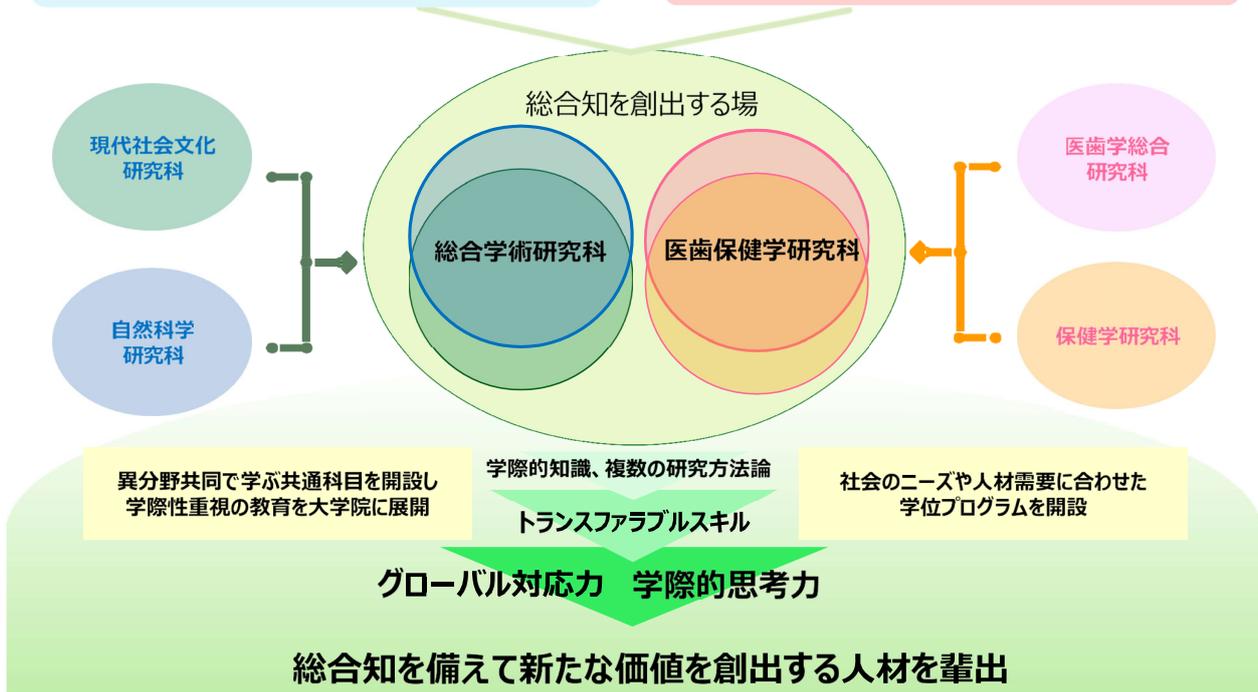
総合知を備えて新たな価値を創出する人材を輩出

研究科統合の概念図

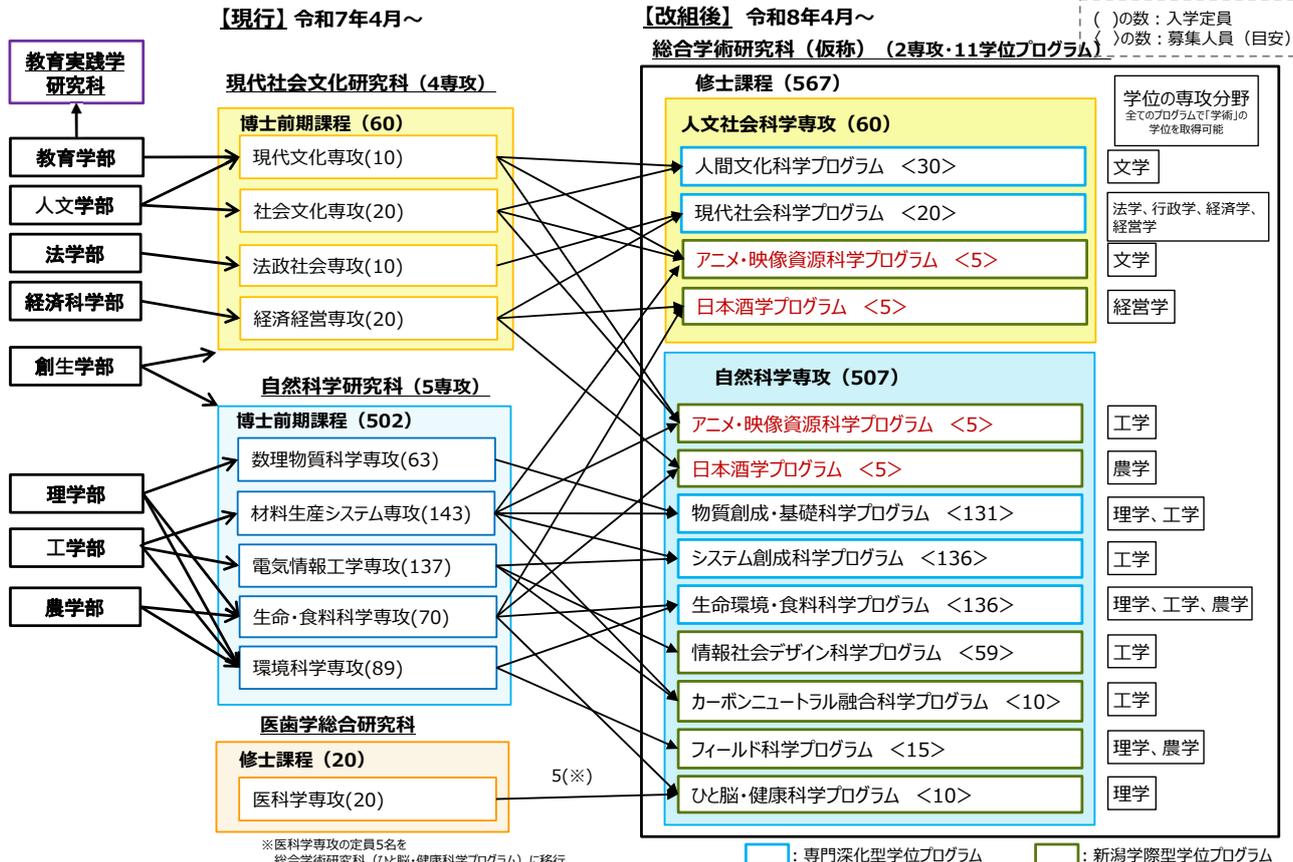
※ 本計画は予定であり、変更になる場合があります。

人文社会科学の「知」と自然科学の「知」を結集・統合させ
単一の専門知では解決できない課題を解決する総合知を創出

医学、口腔保健、看護、医療科学技術を融合することによる
高齢社会への包括的対応、効果的介入法の開発促進へ対応



新・研究科の概要<総合学術研究科(仮称:設置申請中)>

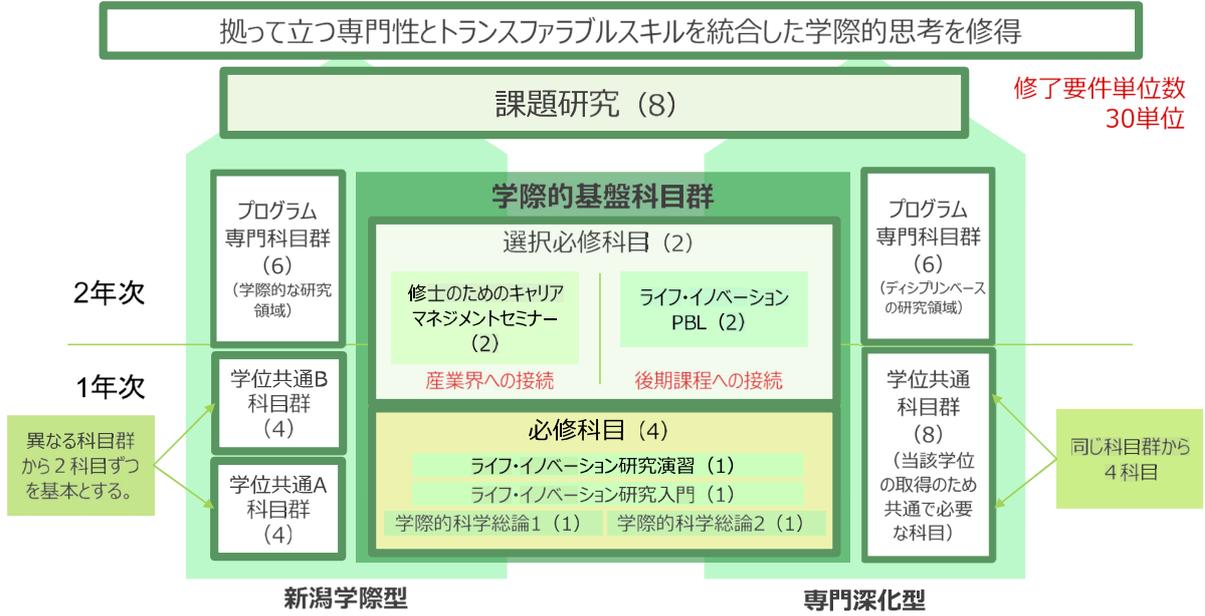


4 ※ 本計画は予定であり、変更になる場合があります。

カリキュラム・ツリー

※ 本計画は予定であり、変更になる場合があります。

学位プログラムの基本的な建付け
学際・融合型と基盤・専門型の2つ ※ () 内は単位数



入学者選抜の情報

※ 本計画は予定であり、変更になる場合があります。

- ・入学者の選抜は一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜の3つの選抜区分において学位プログラムごとに定員の目安を定めて実施します。
- ・一般選抜の第一次募集においては、学士課程における学業成績優秀者を対象とした「学業成績優秀者特別枠」を実施します。（詳細は後日公表）

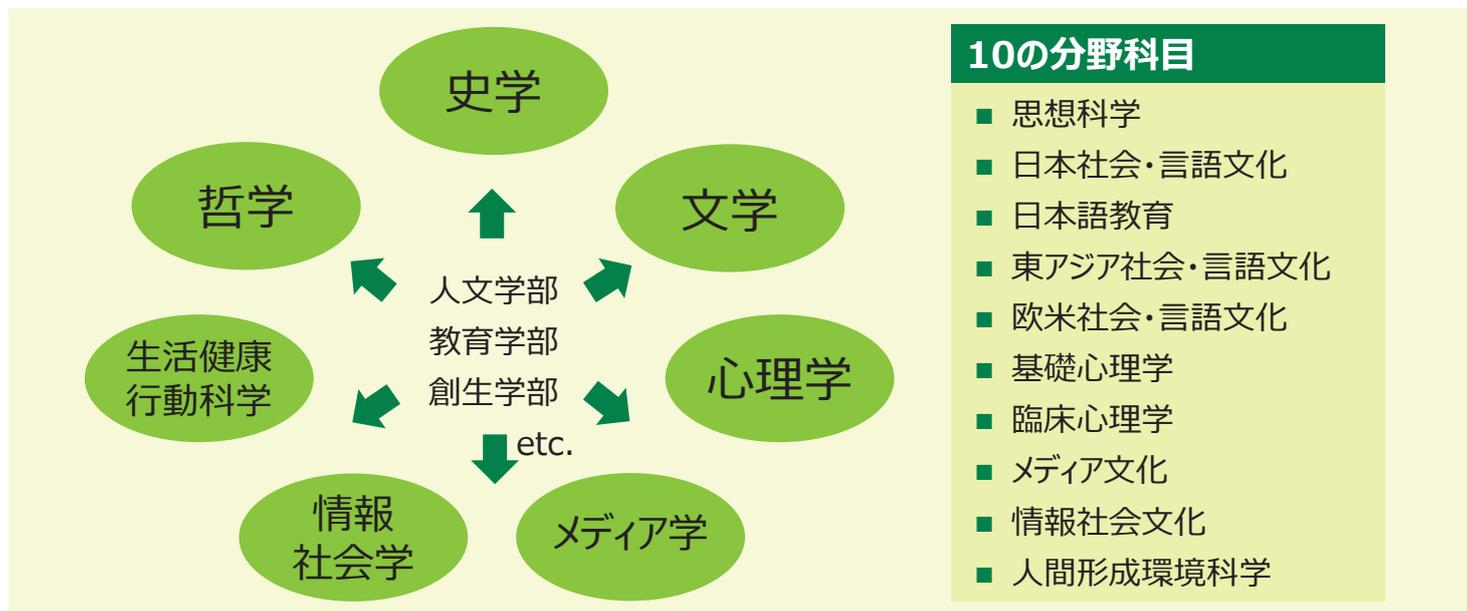
区分	一般選抜 ・ 社会人特別選抜 ・ 外国人留学生特別選抜	
科目	書類審査, 口述試験 注)	
募集要項公表	令和7年7月以降	
第1次募集	入試日程	合格発表
	令和7年9月下旬以降	令和7年10月中旬以降
第2次募集	入試日程	合格発表
	令和8年2月中旬	令和8年3月上旬

注) 一般選抜においては、公的語学検定スコアの提出を求めます。
但し、「学業成績優秀者特別枠」へ出願する者は、公的語学検定スコア提出を免除します。

※ 本計画は予定であり、変更になる場合があります。

人文系学問分野の 専門性を深める！

課題発見及び探究能力と倫理観を有する
専門職業人または研究教育者を育成



10の分野科目

- 思想科学
- 日本社会・言語文化
- 日本語教育
- 東アジア社会・言語文化
- 欧米社会・言語文化
- 基礎心理学
- 臨床心理学
- メディア文化
- 情報社会文化
- 人間形成環境科学

学位
修士(文学) Master of Arts
修士(学術) Master of Philosophy

進路

公務員、教員、民間企業、
博士後期課程への進学等

人文社会科学専攻 現代社会科学プログラム (専門深化型)

※ 本計画は予定であり、変更になる場合があります。

・取得できる学位

修士(法学)、修士(行政学)、修士(経済学)、
修士(経営学)、修士(学術)

・既存の研究科の、どの専攻・コースまたは分野から移行するのか

現代社会文化研究科・法政社会専攻
現代社会文化研究科・経済経営専攻

・想定される入学者の主な出身学部・学科・プログラム

法学部、経済科学部、他

・プログラムが養成する人材像

現代社会において、共生と持続的発展を実現するためのルールや仕組みに関心を持ち、限られた資源の分配や個人と組織との関係性といった課題に主体的に取り組む姿勢を備えた人材。法学・政治学・経済学などの社会科学の高度な専門知識と学際的な素養、さらに汎用的能力(トランスファラブルスキル)を活かして、自ら課題を発見・探究できる専門職業人・研究者を目指します。

・学べる内容

法学、政治学、行政学、経済学、経営学、公共経営学といった社会科学分野を基礎とし、現代社会の制度や政策、組織の構造、資源配分の仕組みなどを幅広く学修。これにより、学際的視点と実践的スキルを養い、社会課題の解決に向けた分析力と提案力を培います。

・想定される進路

博士後期課程への進学、国・地方公共団体、一般企業における総合職、起業家、他

人文社会科学専攻/自然科学専攻 アニメ・映像資源科学プログラム

■新潟学際型

◆取得できる学位 {
修士(工学)
修士(学術)
修士(文学)

工学部、人文学部、創生学部、経済科学部(学際日本学プログラム)など、文系・理系両方から入学者を想定しています。

学べる主な内容

画像・視覚情報処理論

地域文化資源アーカイブ論

アニメ文化解析論

建築・都市研究

材料科学

◆プログラムが養成する人材像

アニメや地域映像をはじめとするさまざまな映像資源について、その文化や社会とのかかわり、画像処理・保存に関する技術・倫理・法に焦点を合わせ、映像資源文化および映像資源科学における高度な専門的知識及び学際的素養とトランスファラブルスキルを備え、自ら課題を発見し探究する能力を有した専門職業人・研究者を養成します。

▶想定される進路

博士後期課程への進学、アーカイブ機関やコンテンツ産業の専門職員、学芸員やメディア・アーティスト、国・地方公共団体、一般企業における総合職

※ 本計画は予定であり、変更になる場合があります。

新潟大学

人文社会科学専攻/自然科学専攻 日本酒学プログラム

・新潟学際型

・取得できる学位

修士(経営学)、修士(農学)、修士(学術)

※ 本計画は予定であり、変更になる場合があります。

・既存の研究科の、どの専攻・コースまたは分野から移行するのか

現代社会文化研究科(経済経営専攻) 日本酒学分野
自然科学研究科(生命・食料科学専攻) 日本酒学コース

・想定される入学者の主な出身学部・学科・プログラム

経済科学部総合経済学科(経営学プログラム、地域リーダープログラム、他)
農学部農学科(応用生命科学プログラム、食品科学プログラム、生物資源科学プログラム、他)

・プログラムが養成する人材像

日本酒という対象を共通の軸として、経済経営学・農学を専門領域に加え、日本酒の原料・生産・販売・消費、及び文化や歴史・伝統、健康に関わる学問分野における高度な専門的知識及び学際的素養とトランスファラブルスキルを備え、自ら課題を発見し探究する能力を有した専門職業人・研究者を養成する。

・学べる内容 経済学、経営学、行政学、法学、農学、農芸化学、食品科学、応用生命科学、他

日本酒学プログラム専門科目群：日本酒学概論(自然科学/人文社会科学/医歯学・保健学/他)基礎・発展日本酒学実習、日本酒学セミナー(文理合同)、他

・想定される進路

博士後期課程への進学、国・地方公共団体、酒類・食品等の一般企業における総合職、他

新潟大学

自然科学専攻 物質創成・基礎科学プログラム（専門深化型）

□ 学位：修士（理学）・修士（工学）・修士（学術）

□ 教育：下記5分野の科目群を横断した履修

- ・ 物質宇宙基礎科学(理学)
- ・ 数理科学(理学)
- ・ 基礎化学(理学)
- ・ 物質材料科学(工学)
- ・ 素材創成化学(工学)

□ 研究：物理/化学/数学に関する基礎と応用

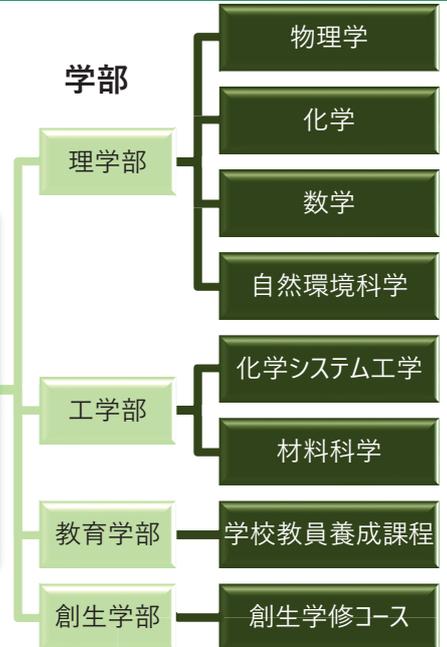
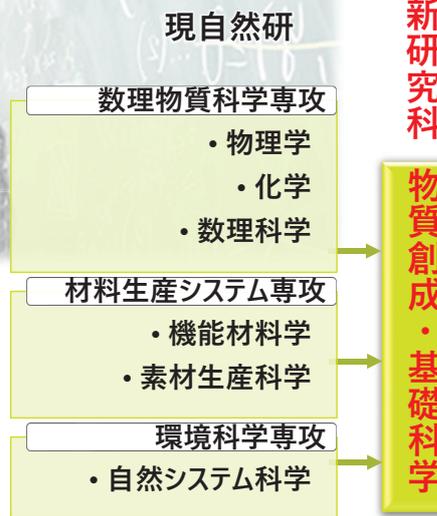
- ・ 物質の起源や自然法則/原理の解明
- ・ 新物質の物理的性質/化学的機能や反応機構の探究
- ・ 社会実装を目指した新素材/生産技術の開発
- ・ 自然界や社会の諸現象の数理的解析と理解

□ 目指す人物像

科学技術の課題に能動的に対処できる広い見識を有し独創性に富んだ人物

□ 想定される進路

大学院博士後期課程・製造業・エネルギー産業・情報産業・教育機関



※ 本計画は予定であり、変更になる場合があります。

自然科学専攻 システム創成科学プログラム（専門深化型）

■ 取得できる学位：修士（工学），修士（学術）

※ 本計画は予定であり、変更になる場合があります。

■ 既存の研究科の、どの専攻・コースまたは分野から移行するのか

- 材料生産システム専攻：機械科学コース
- 電気情報工学専攻：電気電子工学コース，人間支援科学コース

■ 想定される入学者の主な出身学部・学科・プログラム

- 工学部：機械システム工学プログラム，電子情報通信プログラム，人間支援感性科学プログラム

■ プログラムが養成する人材像

- 機械工学，電気・電子・情報通信工学，人間支援科学の分野を専門とし，深い専門性と課題発見・解決能力を高め，先進機械システム，電子情報通信システム，人間情報システムの分野における高度専門職業人，研究教育者を育成する。

■ 学べる内容

- 機械工学，電気・電子・情報通信工学，人間支援科学の専門分野への理解の深化と他分野への理解を促す教育研究を行う。専門共通科目では，先進機械システム分野科目群，電子情報通信システム分野科目群，人間情報システム分野科目群の3分野から柔軟に履修できるカリキュラムを提供する（分野を超えた履修可）。

■ 想定される進路

- 民間企業（電力/エネルギー，電機/重電/重工/自動車/造船，輸送，インフラ/建設，情報通信/ソフトウェア，材料/素材/化学，食品/製薬，医療・福祉，金融・保険・不動産など）及び公務員などへの就職，博士後期課程進学

自然科学専攻 生命環境・食料科学プログラム（専門深化型）

※ 本計画は予定であり、変更になる場合があります。

・取得できる学位：修士（理学），修士（工学），修士（農学），修士（学術）

・既存の研究科の、どの専攻・コースまたは分野から移行するのか

環境科学専攻（自然システム科学コース，流域環境学コース，社会基盤・建築学コース，地球科学コース，災害環境科学コース），生命・食料科学専攻（基礎生命科学コース，生物資源科学コース，応用生命・食品科学コース）

・想定される入学者の主な出身学部・学科・プログラム

理学部理学科（生物学プログラム，地質科学プログラム，自然環境科学プログラム），工学部工学科（社会基盤工学プログラム，建築学プログラム），農学部農学科（応用生命科学プログラム，食品科学プログラム，生物資源科学プログラム，流域環境学プログラム）

・養成する人材像

生命現象や自然環境に関する科学的課題，および社会への実装を目指した開発課題の分析・解決に焦点を合わせ，生命，生物，食糧生産，地球，環境，生態等に関わる学問分野における高度な専門的知識及び学際的素養とトランスファラブルスキルを備え，自ら課題を発見し探究する能力を有した専門職業人・研究者を養成する。

・学べる内容

生物学，地質学，建築学，土木工学，農学，農芸化学，農業工学，自然災害科学

・想定される進路

博士後期課程への進学，教育機関における教育職，国・地方公共団体，一般企業（バイオ・食品，農林業，医薬業，土木建設，資源開発，地質・環境コンサルタント等）における技術系総合職

 新潟大学

自然科学専攻 情報社会デザイン科学プログラム（新潟学際型）

※ 本計画は予定であり、変更になる場合があります。

■ 取得できる学位：修士（学術），修士（工学）

■ 既存の研究科との対応

- 大学院自然科学研究科 電気情報工学専攻 情報工学コース（現在のM2）
- 大学院自然科学研究科 材料生産システム専攻 社会システム工学コース（現在のM2）
- 大学院自然科学研究科 電気情報工学専攻 情報社会デザイン科学コース（現在のM1）

■ 想定される入学者の出身学部

- 工学部 工学科 知能情報システムプログラム
- 工学部 工学科 協創経営プログラム
- 創生学部 DX共創コース

■ プログラムが養成する人材像

- 社会に潜在する種々の課題を顕在化し，その中にある個々の人，組織，地域，国々の特性に沿った最善の解決策を見出せること。ならびに高度情報化社会をリードする専門人材として利害関係者を適切に包含しつつ，自然科学や人文・社会科学，高度な情報通信，データサイエンス，デジタル技術，デジタルトランスフォーメーションを学び，これらの知見に基づいた具体的かつ実施可能な課題解決計画を立案，実施，そして継続的に改善する能力を有する人材を養成します。

■ 学べる内容

- コミュニケーション・情報技術・データサイエンス・マネジメント各分野における基盤的な能力と知識
- データの活用および変革の推進に伴う各種価値判断および倫理的判断をリードするために必要な知識
- 情報科学・情報技術分野における専門知識，及び当該分野知識の社会実装における各種課題の理解
- データサイエンスおよび人工知能に関連する技術および知識，及び実社会におけるデータの収集・分析・解釈・管理に必要な基盤的な能力
- 社会における複雑なシステムを設計・変革するために必要なマネジメント，及び社会システム工学分野の基礎的な知識
- 社会における変革を先導できる人材として，これらの知識を統合し，一連の変革プロセスを設計し実行する能力あるいは変革における困難な課題を克服する能力

■ 想定される進路

- 博士後期課程への進学，国・地方公共団体，一般企業（IT関連企業，流通・金融・製造業の情報部門，コンサルタント業等）における技術系総合職

 新潟大学

自然科学専攻 **カーボンニュートラル融合科学プログラム**（新潟学際型）

■ 取得できる学位：修士（工学）、修士（学術）

※ 本計画は予定であり、変更になる場合があります。

■ 既存の研究科の、どの専攻・コースまたは分野から移行するのか

- 材料生産システム専攻機能材料科学コース・素材生産科学コース・機械科学コース
- 電気情報工学専攻電気電子工学コース

■ 想定される入学者の主な出身学部・学科・プログラム

- 工学部 工学科 機械システム工学プログラム、電子情報通信プログラム、化学システム工学プログラム、材料科学プログラム

■ プログラムが養成する人材像

- カーボンニュートラルに資する科学技術全般に深い造詣を有する人材を養成します。研究面においては、既存分野のみならず、既存分野を融合し、自ら新しい研究分野を開拓可能な能力を身に付けることを目標とします。

■ 学べる内容

- カーボンニュートラル達成に資する個別要素科学技術（太陽熱利用、水電解、太陽光発電・太陽電池、風力発電等）もしくはその融合技術
（個別要素科学技術は専門深化型の研究室でも研究できます）
- 全体統合技術（エネルギーマネージメント、スマートグリッド、水素サプライチェーン等）
（当面の間、他大学等との連携のもとに研究することになります）

■ 想定される進路

- 博士後期課程進学を経て大学や国公立研究所等のアカデミックポストに就職する進路と、エネルギー関連企業、各種製造業等での研究開発職に就職する進路を想定します。

 新潟大学

自然科学専攻 **フィールド科学プログラム**（新潟学際型）

✓ 理学、農学、工学、教育学、人文学、自然共生科学、災害・復興科学などフィールド科学に関わる教員が協働で授業や指導を担当する
学際型プログラム

✓ 修士（理学）、修士（農学）、修士（学術）の学位が取得可能

✓ 現行の自然科学研究科フィールド科学コースの発展形

✓ 学内からは、理学部（フィールドP、自然環境P）、農学部（フィールドP、流域環境P）、教育学部、工学部からの進学を想定



学びの答えは、フィールドにある

プログラムが養成する人材像

自然・環境の未解明現象や、生態系・環境の保全、災害対策、関係する社会科学的課題に際し、さまざまな場面で必要とされる知識と技術を統合しそれら諸課題を自然科学・社会科学双方の視点から総合的に理解し、フィールドで実践的に解決できる人材、すなわち**フィールドサイエンティストを養成する。**

学べる内容

海洋・気象学、地形・地質学、惑星科学、地球環境物理化学、生態・森林再生・保全学、人文地理学、自然災害科学にまたがる**多彩なフィールド科学分野の研究**に取り組むことができる。

想定される進路

大学院博士後期課程進学、国交省、環境省、林野庁、気象庁、県庁、建設コンサルタント、環境コンサルタント、機器分析系企業、教員など

※ 本計画は予定であり、変更になる場合があります。

 新潟大学

取得学位 修士（理学）、修士（学術）の新設プログラムです。

旭町地区の脳研究所で講義・研究室活動を実施します。想定される入学者の出身学部・学科は、理学部、人文学部（心理学）、工学部です。

・プログラムが養成する人材像

- ①認知症予防・治療や健康寿命延伸に貢献できる専門家
- ②デジタルヘルス・AIで社会実装を先導する実践者

・学べる内容（研究テーマ例）

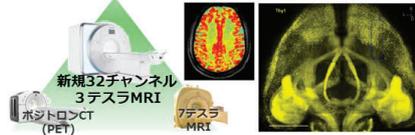
- ①ひと脳神経科学（PET・MRI・脳波による脳病態解析やひとの心の仕組みの理解など）
- ②デジタルヘルス科学（イヤホン型の迷走神経刺激装置の開発など）
- ③最先端の神経病態科学（認知症などの病態解明やAIを駆使したデジタル創薬など）

・脳研究所の特徴

① 世界最大規模のブレインバンク



② 世界トップレベルの脳機能画像解析基盤



③ 国内唯一の基礎・臨床融合研究拠点



・想定される進路

- ①大学院博士課程/研究機関：神経科学・公衆衛生・医工連携分野の研究者
- ②医療・ヘルスケア産業：デジタルヘルス企業、製薬・医療機器メーカーでのR&Dなど

※ 本計画は予定であり、変更になる場合があります。